

2023年3月期決算発表 補足資料

2023年4月28日
日本ガイシ株式会社

[セグメント間売上消去後]

□ は2023/3公表値

	2022年3月期 通期		2023年3月期 通期		前期比	2024年3月期 通期		前期比
	※実績	構成比	実績	構成比		見通し	構成比	
売上高合計	億円		億円			億円		
	5,104	100%	5,500	5,592	100%	5,650	100%	+1%
<海外売上高合計>	<3,856>	76%	<4,297>		77%	<4,300>	76%	+0%
営業利益 (率)	835 (16%)		650 (12%)	668		560 (10%)		△16%
エンバロメント事業 ("EN事業")	2,927	57%	3,100	3,208	57%	3,350	59%	+4%
営業利益 (率)	651 (22%)		490 (16%)	507		510 (15%)		+1%
デジタルソサエティ事業 ("DS事業")	1,503	29%	1,650	1,632	29%	1,470	26%	△10%
営業利益 (率)	199 (13%)		175 (11%)	176		50 (3%)		△72%
エネルギー&インダストリー事業 ("E&I事業")	675	13%	750	753	13%	830	15%	+10%
営業利益 (率)	△14 (-)		△15 (-)	△15		0 (0%)		-

	売上高比	前期比	売上高比	前期比	売上高比	前期比
経常利益	862 17%	630 12%	659 12%	△24%	530 9%	△20%
親会社株主に帰属する 当期純利益	709 14%	510 10%	550 10%	△22%	385 7%	△30%
ROE	12.9%	9.0%		6.0%		
1株当たり純利益	226.56円	177.47円		125.67円		
配当金(配当性向)	63円(27.8%)	66円(37.2%)		50円(39.8%)		

為替レート(円/USD) 113 135 130
 為替レート(円/EUR) 131 141 140

設備投資	381	7%	437	8%	+15%	660	12%	+51%
減価償却費	493	10%	537	10%	+9%	570	10%	+6%
研究開発費	236	5%	262	5%	+11%	310	5%	+19%

2023年3月期 実績 … 売上高は為替円安効果により過去最高も、前期比 減益

① 事業別業績概況(売上高・営業利益)

【EN事業】

・自動車関連

… 増収・減益

中国における経済活動抑制の影響があったものの、為替円安のプラス効果等により増収。インフレに伴う労務費や原燃料価格の高騰により減益。

【DS事業】

・HPC ※

… 増収・減益

下期から顕在化した半導体投資の停滞により需要が減少したものの、為替円安効果により増収・増益。スマホ販売低迷や下期のデータセンター投資縮小を背景に需要が減少し、減収・減益。

【E&I事業】

・エナジーストレージ
・ガイシ
・産業プロセス

… 増収も赤字が継続

国内を中心に出荷が増加するも、原材料価格の高騰により赤字が継続。海外案件の増加や価格改定により増収・増益。リチウムイオン電池正極材向け焼成炉の需要が拡大し増収。

② 為替影響

売上高+379億円、営業利益+155億円
(前期113円→当期135円/USD、131円→141円/EUR)

③ 特別損失

エンバロメント事業の生産能力適正化に伴う特別損失に加え、知多事業所におけるがいし製品の製造・販売終了に伴う減損損失を計上。

④ 法人税等還付税額

移転価格税制に関わる法人税等還付税額および見積金額の戻し入れ合計118億円を計上。

※ HPC…半導体製造装置用製品

2024年3月期 見通し … EN事業は堅調に推移し売上高過去最高更新も、DS事業の上期低迷により減益

① 事業別業績概況(売上高・営業利益)

【EN事業】

・自動車関連

… 増収も利益は前期並み

半導体等の部品供給不足の緩和を背景とした自動車生産の回復や排ガス規制強化により需要が増加し増収の見通し。利益はインフレに伴う労務費や原燃料価格の上昇により前期並みの見通し。

【DS事業】

・HPC

… 減収・減益

半導体投資抑制や米国輸出規制強化などにより上期の需要が大幅に減少し、減収・減益の見通し。需要の回復は下期以降を見込む。上期はデータセンター投資の縮小やスマホ販売低迷が継続するも、下期から市況が回復し、通期では売上高は前期並み。利益は原燃料価格の上昇等により減益の見通し。

【E&I事業】

・エナジーストレージ
・ガイシ
・産業プロセス

… 増収・赤字縮小

国内及び海外の需要家向け出荷が増加するも、原材料価格の上昇等により赤字継続の見通し。輸出案件減少も、価格改定を実施し売上・利益ともに前期並みの見通し。リチウムイオン電池正極材向け焼成炉の需要が拡大し、増収・増益の見通し。

② 為替影響

・前期比

売上高 △69億円、営業利益 △8億円
(前期135円→当期130円/USD、141円→140円/EUR)

・年間1円当たりの影響

USD(売上高13億円、営業利益5.0億円)
EUR(売上高 6億円、営業利益0.6億円)

③ 研究開発費

過去最高の310億円を予定。約70%をカーボンニュートラル・デジタルソサエティ関連に投じ、開発を加速。

④ 配当予想

中間25円、期末25円の年間50円を予定。

※2023年3月期の期首より事業セグメントを変更しています。

この変更に伴い2022年3月期の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

4事業本部から3事業本部に再編し、プロセステクノロジー事業本部を解消しています。

セラミックス事業本部をエンバロメント事業本部("EN事業本部")に改称しています。

エレクトロニクス事業本部を解消し、HPC事業、電子デバイス事業、金属事業でデジタルソサエティ事業本部("DS事業本部")に再編しています。

エネルギーインフラ事業本部を解消し、エナジーストレージ事業、ガイシ事業、産業プロセス事業で

エネルギー&インダストリー事業本部("E&I事業本部")に再編しています。

〔セグメント間売上消去後〕

	2022年3月期 第2四半期累計		2023年3月期 第2四半期累計		2024年3月期 第2四半期累計		前年 同期比
	実績 ※	構成比	実績	構成比	見通し	構成比	
	億円		億円		億円		
売上高合計	2,502	100%	2,747	100%	2,650	100%	△4%
<海外売上高合計>	<1,904>	76%	<2,110>	77%	<2,000>	75%	△5%
営業利益 (率)	459 (18%)		388 (14%)		250 (9%)		△36%
エンバイロメント事業 ("EN事業")	1,476	59%	1,531	56%	1,660	63%	+8%
営業利益 (率)	368 (25%)		262 (17%)		260 (16%)		△1%
デジタルソサエティ事業 ("DS事業")	715	29%	882	32%	640	24%	△27%
営業利益 (率)	100 (14%)		137 (16%)		0 (0%)		—
エネルギー&インダストリー事業 ("E&I事業")	311	12%	334	12%	350	13%	+5%
営業利益 (率)	△9 (-)		△11 (-)		△10 (-)		—

		売上高比		売上高比		売上高比	前年 同期比
経常利益	439	18%	345	13%	230	9%	△33%
親会社株主に帰属する 当期純利益	320	13%	265	10%	160	6%	△40%

為替レート(円/USD)

110

133

130

為替レート(円/EUR)

131

139

140

設備投資	164	7%	199	7%	320	12%	+61%
減価償却費	241	10%	265	10%	280	11%	+6%
研究開発費	108	4%	119	4%	150	6%	+26%

※2023年3月期の期首より事業セグメントを変更しています。

この変更に伴い2022年3月期第2四半期累計期間の経営成績についても同様のセグメント区分に組み替えて表示しています。

4事業本部から3事業本部に再編し、プロセステクノロジー事業本部を解消しています。

セラミックス事業本部をエンバイロメント事業本部("EN事業本部")に改称しています。

エレクトロニクス事業本部を解消し、HPC事業、電子デバイス事業、金属事業でデジタルソサエティ事業本部("DS事業本部")に再編しています。

エネルギーインフラ事業本部を解消し、エナジーストレージ事業、ガイシ事業、産業プロセス事業で

エネルギー&インダストリー事業本部("E&I事業本部")に再編しています。